

「大規模氾濫時の減災対策協議会 及び 各地区流域治水及び減災対策協議会」

鳥取地方気象台
令和8年 6 月

3 か月予報 6 月～8 月の天候見通し

中国地方（山口県を除く） 3 か月予報（06月～08月）

2026年05月19日14時00分 広島地方气象台 発表

06月～08月	気温	平均気温は、高い確率 70 % です。
06月	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率 60 % です。
07月	天候	期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率 60 % です。
08月	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率 60 % です。

気温、降水量の各階級の確率（%）

気温	中国地方	06月～08月	10	20	70
		06月	10	30	60
		07月	10	30	60
		08月	10	30	60
降水量	中国地方	06月～08月	30	30	40
		06月	30	30	40
		07月	30	40	30
		08月	30	40	30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

次回発表予定等

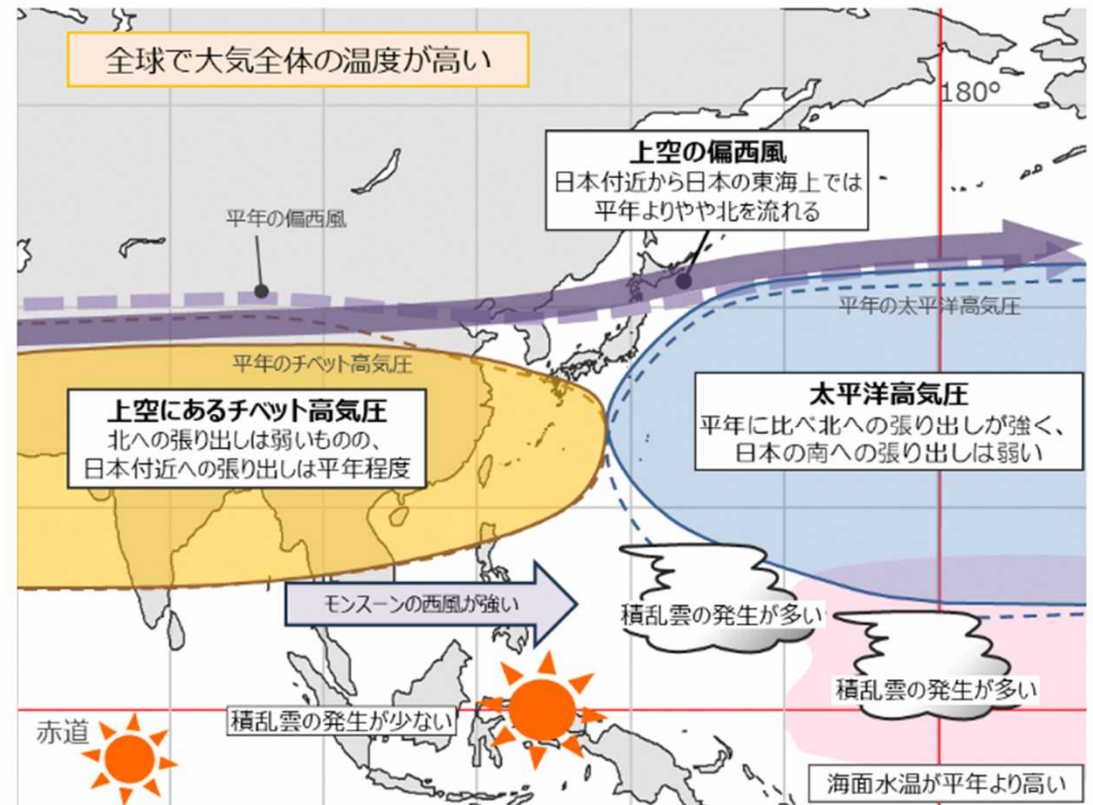
次回は2026年06月23日(火)14時00分に発表予定

最新の1 か月予報もあわせてご利用ください。 暖候期予報として発表していたこの夏（6～8月）の予報については、今回の3 か月予報等最新の予報をご利用ください。

予想される海洋と大気の特徴

中国地方3か月予報（令和8年5月19日発表）の解説資料より

- 地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が高いでしょう。
- エルニーニョ現象が発生する可能性が高く、海面水温は太平洋赤道域の東部から中部で高く、北太平洋熱帯域の中部でも高いでしょう。また、モンスーンの西風が強いでしょう。このため、積乱雲の発生はフィリピンの東から太平洋中部で多いでしょう。
- 一方、インドネシア付近からインド洋にかけては積乱雲の発生が少ないでしょう。
- これらの影響により、上空の偏西風はユーラシア大陸では平年より南を流れるものの、日本付近から日本の東海上では平年よりやや北を流れる見込みです。チベット高気圧は北への張り出しは弱いものの、日本付近への張り出しは平年程度でしょう。また、太平洋高気圧の北への張り出しは強く、日本の南への張り出しは弱いでしょう。
- これらのことから、日本付近は暖かい空気に覆われやすいでしょう。



数値予報結果をもとにまとめた予想される海洋と大気の特徴

[中国地方の梅雨]

平 年	入 り	6月6日ごろ	明 け	7月19日ごろ
令和7年	入 り	5月16日ごろ	明 け	6月27日ごろ

注) 梅雨入り・明けは、一般に数日程度の幅を持つ現象（〇〇日ごろと表現）。

防災気象情報の改善について

- 「防災気象情報に関する検討会」の最終とりまとめ（令和6年6月）を踏まえた**新しい防災気象情報の運用を令和8年5月29日から開始。**
- 新しい防災気象情報では、**住民の避難行動に対応した5段階の警戒レベルに整合させ、災害発生危険度の高まりに応じて各情報を発表**します。
- この方針のもとで、**情報名称の変更**、警戒レベル4相当となる**危険警報の新設**、**洪水関係の情報変更**、**気象防災速報の新設**など、現行の大雨警報・注意報などの気象庁が発表する防災気象情報が大きく変わります。

新しい防災気象情報（令和8年 5 月29日から運用開始）

- 防災気象情報（河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮）を 5 段階の警戒レベルにあわせて発表します。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、**レベル 4 相当の情報として危険警報を新設します。**
- **情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表します。**（例：レベル 4 大雨危険警報 等）

新しい防災気象情報の情報体系とその名称

	河川氾濫 1 級河川などの 大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や 大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや 土石流	高潮 海水面の上昇や 波の打上げによる浸水	（警戒レベルごとの） 住民が とるべき行動
警戒レベル 5 相当	レベル 5 氾濫特別警報	レベル 5 大雨特別警報	レベル 5 土砂災害特別警報	レベル 5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
----- <警戒レベル 4 までに危険な場所から かならず避難！> -----					
警戒レベル 4 相当	レベル 4 氾濫危険警報	レベル 4 大雨危険警報	レベル 4 土砂災害危険警報	レベル 4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
警戒レベル 3 相当	レベル 3 氾濫警報	レベル 3 大雨警報	レベル 3 土砂災害警報	レベル 3 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
警戒レベル 2	レベル 2 氾濫注意報	レベル 2 大雨注意報	レベル 2 土砂災害注意報	レベル 2 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
警戒レベル 1	早期注意情報				災害への心構えを高める

レベルの数字を見ただけで、どういう行動をとるべき気象状況になっているのか、
すぐにわかるようになることを目指す

大雨警報等と対象災害との関係

①土砂災害



土石流

がけ崩れ

✓ 大雨により、土の中に雨が浸透し、土砂が崩れることにより発生。

土砂キキクル

②大雨による低地の浸水

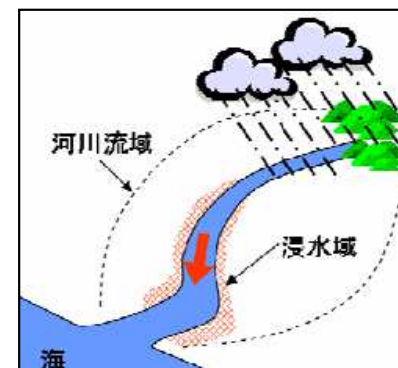


内水氾濫

✓ 大雨により雨水の排水能力が追いつかず発生する浸水。

浸水キキクル

③大雨による河川の氾濫



外水氾濫

✓ 河川の水位が上昇し、堤防を越えるなどして堤防から水があふれ出す。

洪水キキクル、水害リスクライン

大雨警報・大雨注意報

土砂災害警戒情報

土砂キキクルを使って予測に基づき発表

レベル〇土砂災害警報 等
(市町村ごと)

浸水キキクル、洪水キキクルを使って
予測に基づき発表

レベル〇大雨警報 等
(市町村ごと)

洪水警報・注意報

(洪水予報河川以外) (洪水予報河川)

水位到達情報

※今後も河川管理者から実況水位が発表

指定河川 洪水予報

洪水予報を警報として発表

レベル〇氾濫警報 等
(河川ごと)

※ 河川水位の実況情報として、水位到達情報も河川管理者から引き続き発表されますので、洪水予報河川以外の個々の河川の水位の状況把握に有効活用。川の防災情報でリアルタイムに確認可能。

河川氾濫・大雨に関する情報

- 河川氾濫等に関する情報のうち、洪水予報河川は河川ごとに発表し、これを一般向けの警報扱いとします。これまでの気象台による市町村ごとの洪水警報・注意報の発表は行いません。
- 水位周知河川の氾濫危険情報等のレベル毎の水位の情報は、警戒レベルとの関係を含めてこれまで通りの運用とし、洪水予報河川への移行を促進します。
- 浸水害を対象とした大雨特別警報・警報・注意報は、大雨に関する情報として警戒レベル毎に整理し、警戒レベル相当情報として位置づけます。洪水予報河川以外の河川についても、大雨に関する情報の中で一緒に扱います。

河川氾濫・大雨に関する情報体系と名称

河川氾濫等に関する情報				
分類		洪水予報河川	水位周知河川	左記以外の河川も含む 洪水警報等
河川数		約400河川	河川事務所・都道府県 による水位情報は、これ までどおり発表すること とし、警戒レベルとの関 係は変更しない。	大雨に関する情報で扱 う。
発表主体		河川事務所または 都道府県と気象台		
発表単位		河川ごと		
対象とする 主な現象		外水氾濫		
発表指標		水位（実測・予測）		
情報 名称	5	レベル5 氾濫特別警報	当面は、大雨に関する 情報でも扱う。	
	4	レベル4 氾濫危険警報		
	3	レベル3 氾濫警報		
	2	レベル2 氾濫注意報		
	1	早期注意情報		
		〔 洪水予報河川への 移行を促進 〕		

大雨に に関する情報	
—	
気象台	
市町村ごと	
内水氾濫及び 洪水予報河川以外の外水氾濫	
表面雨量指数・流域雨量指数 （解析・予測）	
レベル5 大雨特別警報	
レベル4 大雨危険警報	
レベル3 大雨警報	
レベル2 大雨注意報	
早期注意情報	

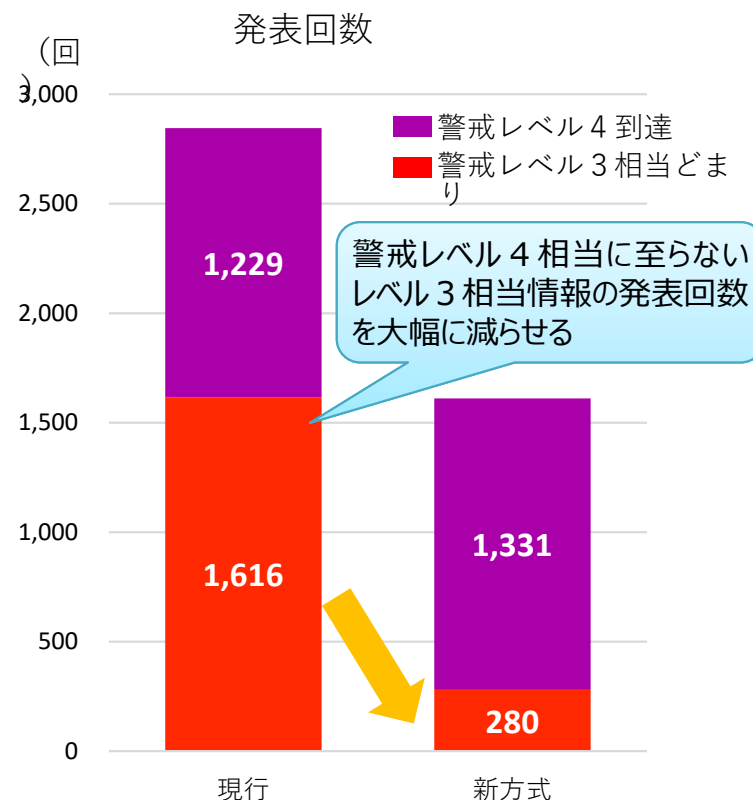
土砂災害に関する情報

- 警戒レベル4相当は、現在の土砂災害警戒情報から**レベル4 土砂災害危険警報**に変更します。
- **レベル3 土砂災害警報**は、発表基準を見直すことで、現在の大雨警報（土砂災害）に比べ、警戒レベル4相当に至らない**情報発表を大幅に減らします**。
- 今後は、**まもなくレベル4 土砂災害危険警報を発表する可能性が高い**状況において、レベル3 土砂災害警報を発表しますので、情報を活用いただくにあたりご注意ください。

土砂災害に関する情報体系と名称

発表指標		60分雨量（解析・予測） 土壌雨量指数（解析・予測）
情報名称	5	レベル5 土砂災害特別警報
	4	レベル4 土砂災害危険警報
	3	レベル3 土砂災害警報
	2	レベル2 土砂災害注意報
	1	早期注意情報

レベル3 警報は、レベル4 危険警報への予告的な扱いになる！



土砂災害に関する警戒レベル3相当及び4相当情報の発表回数の比較（令和5年6～9月のデータに基づく）

新方式の警戒レベル3相当情報の発表回数は、レベル4相当情報の基準（CL）に3時間先に到達すると見込まれる場合として算出。

高潮に関する情報

- 国土交通大臣が指定する海岸（**高潮予報海岸**）では、国土交通省・気象台・都道府県が共同で、「**波の打上げ高**」を加味した、より精度の高い高潮の予報・警報を実施します。
- **レベル5 高潮特別警報は、氾濫が発生または切迫している場合に発表します。**（台風等を要因とした高潮特別警報から移行）
- レベル4 高潮危険警報、レベル3 高潮警報、レベル2 高潮注意報は、浸水被害のおそれがある状況から**リードタイムをとって発表**します。

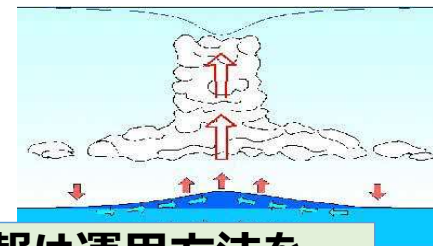
高潮に関する情報体系と名称

分類		高潮予報海岸	その他の海岸
発表主体		国土交通省・気象台・都道府県	気象台
発表指標		波による打上げ高を考慮した水位・潮位	潮位
情報名称	5	レベル5 高潮特別警報	
	4	レベル4 高潮危険警報	
	3	レベル3 高潮警報	
	2	レベル2 高潮注意報	
	1	早期注意情報	

■ 現在の高潮予報・警報

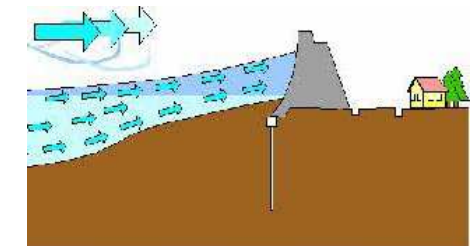
【吸い上げ】

気圧低下による潮位上昇



【吹き寄せ】

海岸に吹く風による潮位上昇



気象庁

特別警報は運用方法を変更して、レベル5 相当に

■ 波の打上げ高を予報・警報に反映

- 波の打上げ高予測モデルや観測技術の開発により、波の打上げ高の予測・観測が可能に

波の打上げ高

高潮時の潮位

時の潮位

国土交通省

都道府県

レベル2 注意報とレベル3 警報は、レベル4 危険警報への予告的な扱いになる！

高潮に関する情報の主な変更点

警戒レベル毎に情報を整理し、避難行動との関係を明確化

(警戒レベル毎の情報に！)

- レベル 5 高潮特別警報を市町村による緊急安全確保発令、レベル 4 高潮危険警報を避難指示発令、レベル 3 高潮警報を高齢者等避難発令のトリガー情報として活用して頂くことを想定して情報を設計。

(発表基準等の見直し)

- 現在の高潮特別警報の台風等を要因としている発表指標は見直して、レベル 5 高潮特別警報として潮位等の基準を新たに設定して運用。
- レベル 4 高潮危険警報の基準は、その基準を超えると浸水被害のおそれがある状況となる高さに設定。
- レベル 4 高潮危険警報、レベル 3 高潮警報、レベル 2 高潮注意報は、浸水被害のおそれがある状況から リードタイムをとって発表。

(注) 現在は高潮注意報で行っている低地での軽微な浸水被害に対する注意喚起は、新たな情報体系では扱わず、今後は高い潮位、大潮等に関する「気象解説情報」で対応

(高潮予報海岸の導入)

- 高潮予報海岸では、従来の潮位予測に基づく発表に加えて波の打上げ高の効果を加味した水位予測に基づく発表も開始（波の効果も加味することで高潮浸水被害に対し、よりの確な情報発表が可能に）。高潮予報海岸以外では、潮位予測に基づき気象庁が発表。

情報名称	発表タイミング	住民がとるべき行動
レベル 5 高潮特別警報	浸水がすでに発生 or 切迫	ただちに安全確保の行動を
レベル 4 高潮危険警報	浸水被害のおそれがある状況となる 約 6 時間前までに発表	浸水想定区域など、高潮による浸水被害のおそれのある場所にいる者は全員安全な場所に避難
レベル 3 高潮警報	浸水被害のおそれがある状況となる 約 12 時間前までに発表	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
レベル 2 高潮注意報	浸水被害のおそれがある状況となる 約 18 時間前までに発表	避難行動を確認（避難場所やルート、時期など）
早期注意情報	5 日先までにレベル 4 相当の現象が予想される場合に「高」「中」の 2 段階で発表	災害への心構えを高める

早期注意情報・時系列情報

- 早期注意情報（警戒レベル1）は、**5日先までの警報級の現象の可能性**を発表
- 時系列情報は、警報・注意報に先立って、**翌日までの気象状況の見通し**を、毎日4回発表

早期注意情報（警報級の可能性）

	1日	2日				3日	4日	5日	6日
警報級の可能性	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12	12-24		
大雨	－	[中]	[高]	[中]	－	－	－	－	－
土砂災害	－	[中]	[高]	[高]	[中]	[中]	－	－	－

明後日までを対象とした情報について、現行では大雨に含まれる土砂災害の警報級の可能性を切り分けて発表するとともに、現行よりも情報の時間幅を細分化。

時系列情報（明日までの警報等の見通し）

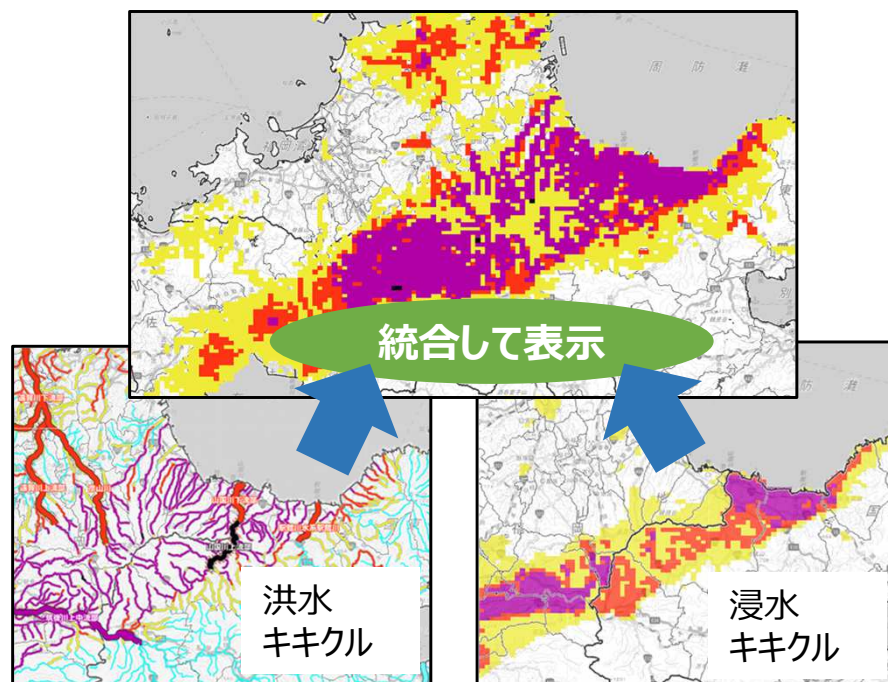
〇〇市の時系列情報（明日までの警報等の見通し）															
2026年XX月XX日11時00分発表															
〇〇市	地域	25日				26日				27日				備考・関連する現象	
		12-15	15-18	18-21	21-24	00-03	03-06	06-09	09-12	12-15	15-18	18-21	21-24		
1時間最大雨量(mm)						10	30	50	50	30	20	10			
2 4 時間最大雨量(mm)		200				200									
大雨															
土砂災害															
暴風(m/s)	陸上	5	10	15	20	25	30	35	30	25	20	15	5		
	海上	10	15	20	25	30	35	30	25	20	15	10	5		
6 時間最大降雪量(cm)															
24 時間最大降雪量(cm)															
大雪															
波浪(m)		2	4	6	8	8	8	8	8	8	5	2			
高潮	潮位(m)	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.0	0.5			
霜															
融雪															
濃霜	陸上														
	海上														
霜水															
霜雪															
乾燥	実効湿度(h)	80				90				70					
	最小湿度(h)	80				90				70					
なだれ															
低溫															
霜															

災害切迫	特別警報基準を超えると予想される時間帯
危険	危険警報基準を超えると予想される時間帯 (土砂災害、高潮については、危険警報発表の可能性のある時間帯)
警戒	警報基準を超えると予想される時間帯 (土砂災害、高潮については、警報発表の可能性のある時間帯)
注意	注意報基準を超えると予想される時間帯 (高潮については、注意報発表の可能性のある時間帯)

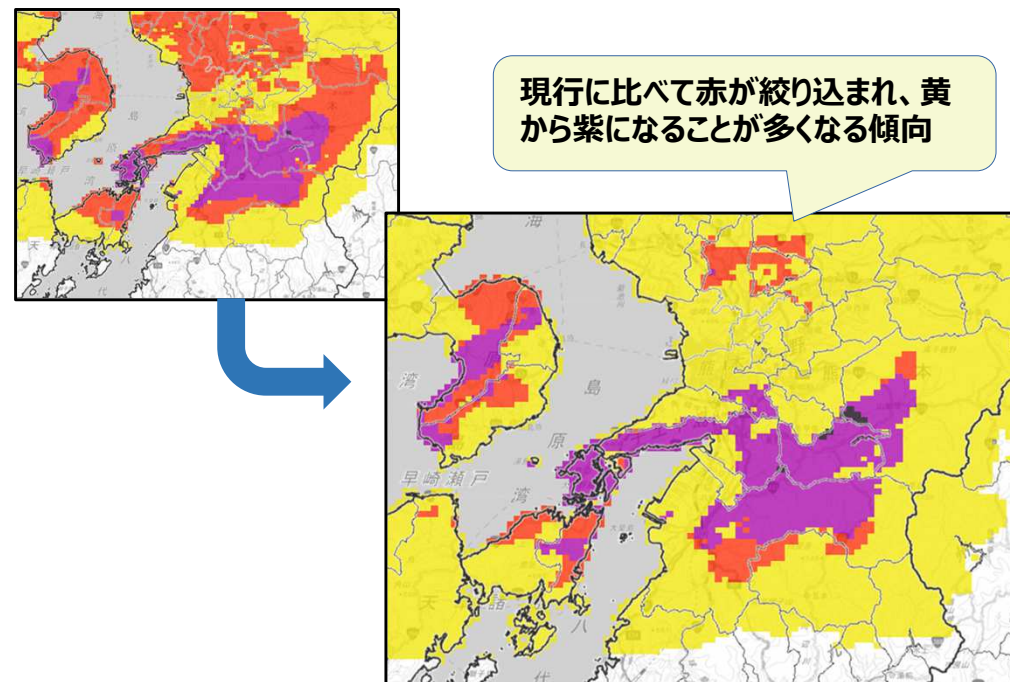
キキクル

- 大雨や土砂災害に関する情報が発表された際、**危険度が高まっている地域を確認**するにはキキクルを活用してください。
- 「**大雨キキクル**」は、**大河川以外の河川の氾濫と浸水の危険度を重ねて表示**するもので、大雨に関する情報に対応しています。
- 「**土砂キキクル**」は、土砂災害の危険度を表示するものです。表示方法は従来と変わりませんが、以下の特性の変化に留意が必要です。
 - 現行に比べ、警戒（赤色）の判定が狭く、**注意（黄色）から危険（紫色）のケースが多くなります。**
 - 4～6時間先に警戒レベル4相当の基準に達すると予想してレベル3土砂災害警報を発表した場合には、**警戒（赤色）の判定が出ていないことがあります。**

大雨キキクル（イメージ）



土砂キキクルの特性変化（イメージ）



気象庁HPでは現行の洪水キキクルと浸水キキクルも切り替えて閲覧可能

気象防災速報・気象解説情報

- 警戒レベル相当情報やそれ以外の警報等を補足する情報として、線状降水帯など**顕著現象が発生または発生しつつある場合に「気象防災速報」を発表します。**
- 現在・今後の気象状況や災害発生の危険度の見通しなどを網羅的に解説する情報として、「気象解説情報」も適宜に発表します。

気象防災速報 … 極端な現象を速報的に伝える情報（府県単位でのみ発表）

現状

記録的短時間大雨情報

顕著な大雨に関する気象情報

顕著な大雪に関する気象情報

竜巻注意情報

今後（令和8年度出水期～）

気象防災速報（記録的短時間大雨）

気象防災速報（線状降水帯発生）

気象防災速報（線状降水帯直前予測）

（R8運用開始予定）

気象防災速報（短時間大雪）

気象防災速報（竜巻注意/竜巻目撃）

気象解説情報 … 現在・今後の気象状況を網羅的に解説する情報（全国・地方・府県単位で発表）

現状

線状降水帯半日前予測を記載した
全般/地方/府県気象情報

全般台風情報(総合情報)

大雨に関する
全般/地方/府県気象情報

今後（令和8年度出水期～）

気象解説情報（線状降水帯半日前予測）

気象解説情報（台風第○号）

気象解説情報（大雨）

線状降水帯の予測精度向上に向けた取組（情報の改善）

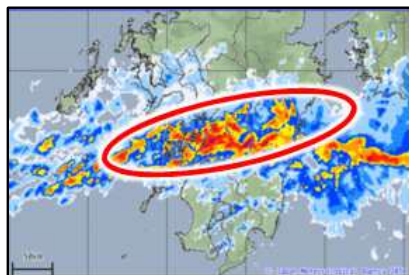
観測の強化、予測の強化により、線状降水帯に関する情報の段階的な改善を実施しています。

- **令和8年から、2～3時間前**を目標にした予測情報を提供予定
 - **令和11年から、半日前に市町村単位**で線状降水帯発生の可能性が把握可能な分布形式の情報を提供予定
- 情報のリードタイムを伸ばし、また、情報の発表の対象地域を狭めることで、国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていきます。

「迫りくる危険から直ちに避難」→情報のリードタイムをのばす

発生情報

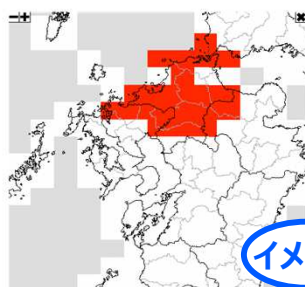
令和3年	線状降水帯の発生をお知らせする情報
令和5年	最大 30分 程度前倒し



線状降水帯の雨域を楕円で表示

直前予測

令和8年
2～3時間前を目標に
予測情報を発表



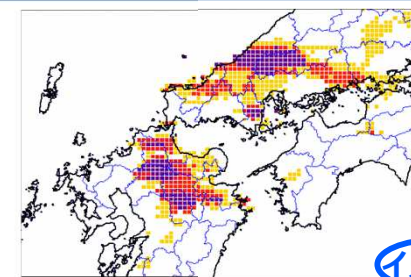
補足情報として、線状降水帯による大雨の恐れがある大まかな領域を図情報で表示（予定）

半日前予測

令和4年	地方単位 で予測
令和6年	府県単位 で予測

↓ さらに**対象地域を狭める**

令和11年
市町村単位で把握可能な危険度分布形式の情報を提供



線状降水帯発生の可能性が把握可能な分布形式で表示（予定）

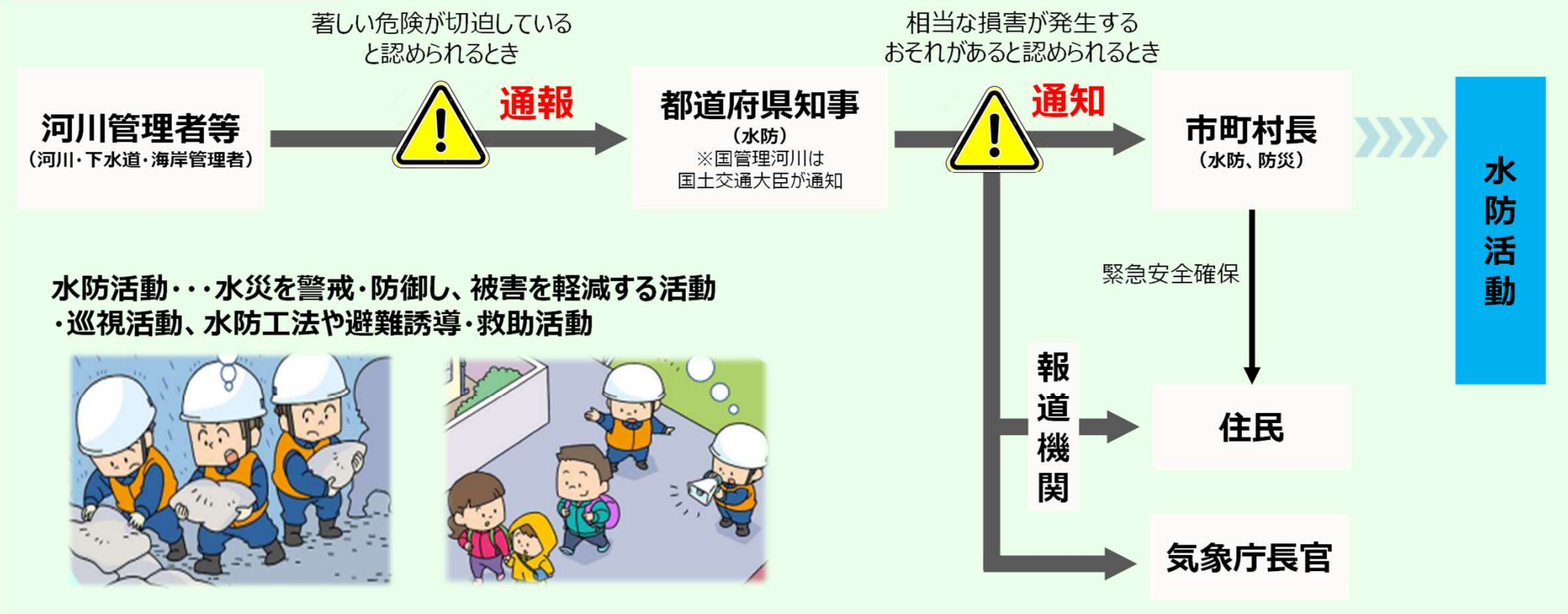
河川管理者等による氾濫に係る通報

- 氾濫によって住民の生命に影響が及ぶ蓋然性が高くなる状況（警戒レベル5となる場合）においては、その状況の速やかな把握や迅速な身の安全を守る行動等の対応をとることが重要となります。
- 氾濫による著しい危険が切迫した状態にあることを、河川管理者等が水防事務を担う都道府県知事等にプッシュ型で通報し、通報を受けた都道府県知事が、水防関係者に通知を行うことで、市町村長等による迅速な緊急安全確保措置の指示やその他の的確な水防活動に繋がります。

※なお、通報を受けた都道府県知事が気象庁長官にも通知を行うことで、特別警報の発表の判断要素として活用されます。

※浸水想定区域・・・住宅等が所在する区域において、洪水や高潮による氾濫等により浸水が想定される区域（市町村がハザードマップを作成することとなっています）

新たな通報制度の概要



防災気象情報の令和8年5月29日からの主な変更点（まとめ）

河川氾濫・大雨

- **洪水予報河川**では、新設する河川氾濫の特別警報を**レベル5 氾濫特別警報**とする。
（発表には、河川管理者の氾濫通報を活用）
- **水位周知河川**では、これまでの水位情報による氾濫危険情報等の発表を続けつつ、**氾濫通報に基づく氾濫発生情報の充実**を図る。
- **その他河川・下水道**では、**氾濫通報に基づく氾濫発生情報の充実**を図る。
- **洪水警報**は、運用せず、**大雨の予報・警報と一体化**。
（レベル4 大雨危険警報を新設）

土砂災害

- 警戒レベル4相当は、現在の**土砂災害警戒情報**から**レベル4 土砂災害危険警報**に変更。
- **レベル3 土砂災害警報**は、3時間先※に**レベル4 土砂災害危険警報の基準に達すると予想される場合**に発表。

※4～6時間先にレベル4 基準に到達すると予想が可能な場合にも発表

高潮

- **レベルに合わせた名称変更**。
- **気象庁**の潮位予測、**国土交通省**の波の打上げ高予測、**都道府県**の集約する地形情報等を結集し、国土交通大臣が**指定する海岸**について、**三者で共同して予報・警報**を実施
- **氾濫通報に基づく氾濫発生情報の充実**を図る。

共通

- **情報名称にレベルの数字**をつけて発表。
- レベル2では「注意報」、レベル3では「警報」と**統一感を持った名称**へ。